

病院薬剤師確保に係る要望書



参議院議員・薬剤師 神谷政幸

令和5年7月11日、日本病院団体協議会と日本病院薬剤師会は病院薬剤師確保に係る要望書を加藤勝信厚生労働大臣に提出しました。令和3年6月30日に公表された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ」では、薬剤師の従事先には業態の偏在や地域偏在があり、特に病院薬剤師の確保が喫緊の課題であることが指摘されています。また、「第8次医療計画等に関する検討会」の意見のとりまとめにおいても、「薬剤師の資質向上の観点に加え、薬剤師確保の観点から、病院薬剤師及び薬局薬剤師それぞれの役割を明確にし、薬剤師の就労状況の把握及び地域の実情に応じた薬剤師の確保策を講じること」等が記載されています。病院薬剤師の確保が非常に困難な状況を踏まえ、国レベルでの迅速な対応を求めるため、要望書が提出されました。要望書には「診療報酬上の要望」「地域医療介護総合確保基金等の優先的な活用」「薬学部の卒前及び卒後教育の充実」の3項目が記載されています。診療報酬上の要望の中にある、退院時薬剤情報連携加算の算定対象の拡大や外来業務に関する評価が行われれば、薬薬連携のさらなる推進が期待できます。令和5年4月25日の厚生労働委員会において、過去の中央社会保険医療協議会総会で病院薬剤師の給与問題で議論があったことに触れ、病院薬剤師不足は喫緊の課題になっており、他の医療従事者とともに処遇改善を進めるよう発言しました。厚生労働委員会における病院薬剤師関連の質問動画を以下のYouTube URLにアップしておりますので、ご視聴いただければ幸いです。

【20230425 神谷まさゆき厚生労働委員会 006】

https://youtu.be/PN9_3GkkJzk

